48チームがバレーボールで熱戦

第14回弥生杯小学生バレーボール大会が2月7日、8日の両日、文化会館など6会場で開催されました。

県内や佐賀県から、女子32チーム、男子16チームが出場（市内からは10チーム出場）。予選・決勝を各パートで行い、2日間にわたり熱戦を繰り広げました。

結果は次の通りです（市内チームのみ）。

【4位パート】①田代　③新星

東高生が苗木を寄贈

松浦東高（山口和秀校長）の生徒が2月4日、市役所に花の苗を寄贈し、市役所正面玄関前の花壇に苗を植えました。

寄贈したのはハボタン、パンジー、ビオラの苗約600本。選択教科である生物活用の授業で育て、地域貢献活動の一環として植栽したものです。

この日は、商業科2年生の5人が花壇に配列や色彩を考えながら、約1時間かけて1本ずつ丁寧に植えていきました。

ハボタンは4月ごろまで、パンジーとビオラは5月末まで楽しむことができます。

童謡コンサート

熊本県を拠点に全国でも活動している童謡歌手ＤＯＹＯ組による童謡コンサート（松浦市保育会主催）が2月8日、文化会館で開催されました。

同会が子育て支援の一環として開催。コンサートでは「赤とんぼ」などの童謡のほか「崖の上のポニョ」など約25曲が披露され、集まった市内の保育園児や保護者など約500人は、やさしい歌声に聞き入ったり、一緒に歌ったりして、楽しいひとときを過ごしました。

また、会場では園児の絵画などの展示や、コンサート終了後には保育所で作られた手作りクッキーなども配られました。

近江鍛工で新鍛造ラインが稼動

本市御厨町の近江鍛工長崎工場（本社滋賀県、坂口康一社長）で2月5日、新鍛造ラインの稼動開始式が行われました。

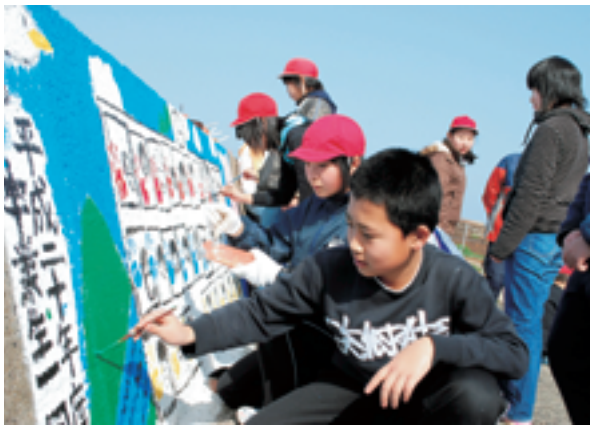
同工場では、ベアリング（軸受け）や産業機械など月約1600㌧を製造。新幹線のベアリングでは全国シェアの約7割を製造しています。今まで外径600㍉以内、重さ80㌔以下のベアリングが製造可能でしたが、今回の稼動で外径800㍉、重さ120㌔までの製造が可能になり、月約500㌧の増産を見込んでいます。

坂口社長は「近隣住民に配慮し、騒音が少ないようにプレス機の油圧を地下に埋設しています。また地元雇用も推進し、地元と密着した企業を目指しています」と話していました。

卒業記念に壁画作成

御厨小学校6年生（29人）が2月12日、御厨町池田地区の遊歩道沿いの防波堤に卒業記念の壁画を完成させました。

遊歩道の植栽などの整備をしている池田寿禄会（小橋川時雄会長）が、子どもたちにふるさとを大切にする心を育てようと呼びかけ、8年前から実施しています。この日は、児童が2班に分かれて「夢」と「友情」をテーマに2枚の壁画作りに挑戦。それぞれ縦約1㍍、横約3.5㍍の壁画を約2時間かけて完成させました。田中瑞稀さん（御厨・寺ノ尾下、11）は「いい卒業記念になりました。大人になって、もし御厨を離れることがあっても、帰ってきたらこの壁画を見にきたいです」と話していました。



わたしたちの郷土 38巻

中世の松浦（4）

文永11年（1274年）10月19日には、元・高麗軍は博多湾まで侵入し、軍勢の一部は湾内西部の今津に上陸します。翌20日には高麗軍が早良川河口の百道原に上陸します。また、元軍の主力も箱崎海岸一帯に上陸します。博多湾沿岸を守る日本側の武士たちは総大将に鎮西奉行の小弐資能、戦闘の指揮に小弐景資があたり兵力は約5千騎、元軍は約2万5千人と日本側にとっては圧倒的に不利な戦いでした。その頃の日本の武士は、まず鏑矢という音の出る矢を空に放ってから合戦を始める伝統があり、名乗りを上げての一騎打ちの戦闘方法でした。一方元・高麗軍は隊伍を整えた大部隊で行動し、金属製の銅鑼や太鼓の音を合図に進軍して集団で襲いかかる戦法を取っていました。このため日本側の武士たちにとっては勝手の違う戦いを強いられました。その結果、武勇で名を馳せた武士も次々に元兵に討ち取られ、圧倒的な元軍の勢力を前に武士たちは退却をせざるを得なくなります。元軍は博多へ侵入し、町に火をかけます。劣勢に立たされた武士たちでしたが各地で善戦します。肥後の御家人菊池武房などの活躍もあり、防御拠点の大宰府を守ることができ、元軍は夜になると海上に浮かぶ元・高麗の船に引き上げてしまいます。この戦いを「文永の役」と呼んでいます。

▶元寇の際に活躍した兵衛次郎の墓（鷹島町神崎免）

ALTコラム

フィオナ先生（オーストラリア出身）

Winter Wonderland
ウィンター・ワンダーランド

1月の土曜日松浦で雪が降った後、たくさんの人からオーストラリアでは雪が降りますかと尋ねられました。私はその度に「はい、山の方では雪が降ります。でも私の出身地、メルボルンのようなまちでは降りません」と答えました。私は日本に来る前には、片手で足りるくらいしか雪を見たことがなかったので、雪が積もり始めた時にはとても興奮しました。その日の夜は、ほとんどの人がそうしたように、家にいて、白くなった通りや、木々の写真を撮り、オーストラリアの家族に写真を送りました。家族はうらやましがりました。その時メルボルンは熱波で、43℃の猛烈な暑さだったからです。

次の日の日曜日は、友人が車で世知原に連れて行ってくれたので、たくさんの雪を見ることができました。雪が15～20センチも積もっていて信じられませんでした。やまびこロードで車を止め、写真を撮ったり、雪合戦をしたりしました。また、ここで私は生まれて初めて雪だるまを作りました。私が、砂の城を作る要領で一握りの雪をたたきつけていたら、友達から「下手、下手」と言われ、最初に小さな雪玉を作って地面を転がし大きくすることを学びました。なんと効率的！私の人生最初の雪だるま作りは日本でした。すばらしい思い出になりました。